

天竜川和船造船技術の伝承事業

取組に至る背景・事業の目的

「天竜川の舟下り」は平成 28 年に飯田市民俗文化財に指定されたが、舟下りを実施している 2 社では和船の造船・操船技術の継承が課題になっていた。そこで、信南交通株式会社と天龍ライン遊舟有限公司及び協賛団体が、和船の伝承を目的とした「天竜川和船文化保存会」を設立し、和船文化の伝承に向けた事業を開始した。

本事業では、地域産木材を使用した和船づくりを次世代に伝承し、文化交流に繋げていくとともに、インバウンド観光の推進に向けた情報発信を目的として実施した。

事業内容

- 1 和船造船技術の伝承
和船の造船技術を持つ船大工を講師として招聘し、船頭 2 名に対し技術の伝承を行った。
和船には下伊那郡根羽村産の木材を使用した。
- 2 ウェブサイトの制作
保存会の活動内容を紹介するウェブサイトを作成し、地域内外に和船文化を周知した。
- 3 和船文化を通じた海外交流の実施
アメリカ人船大工を招聘し、和船の共同制作を行った。
- 4 シンポジウムの開催
アメリカ人船大工の基調講演や、和船文化の伝承についてのパネルディスカッションを実施した。
- 5 造船見学・体験会の開催
小学生や高校生、地域住民に対する造船見学会や体験会を開催した。



【地元小学生による見学・体験風景】

事業効果

- ・船頭 2 名を船大工に育成し、造船の流れや特殊な道具の使い方などを習得した。
- ・船大工体験会は 3 校 71 名、造船見学会は 82 名の参加があり、地域住民に船大工への理解と興味を深めてもらうことができた。また、メディアの取材があったことで全国的にも希少な和船造船文化があることを周知できた。
- ・シンポジウムには 41 名の来場者があったほか、新聞の取材もあり多くの方に活動を周知できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

訪問された方のご意見

- ・市田で造船しているとは思わなかった。
- ・舟を外注していると思った。
- ・実際やってみると難しい。
- ・木の香りが心地よかった。
- ・釘打ちのリズムを聞くと踊りたくなる。

工夫・苦労した点

- ・曲線を操るのが難しい（家は直線だが、舟は曲線）
- ・無理すると木は割れてしまうため、木のご機嫌を伺いながら慎重に作った。

今後の取り組み

- ・写真でしか見たことのない「つなぎ船」を作る。

課題

- ・設計図が存在しないので、今後設計図を作成していかなければならない。

【選定のポイント】

南信州地域の文化である「天竜川の舟下り」や和船が多くの方に再認識されるきっかけとなった。また、企業や地域の枠を超え「天竜川」を核とした観光振興を推進していく機運が高まった。

団体名 天竜川和船文化保存会（飯田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 0 2 6 5 - 2 4 - 3 3 4 5	事業費	2, 8 4 5, 4 5 7 円
ホームページ: https://www.tenryu-wasen.com/	支援金額	2, 2 7 6, 0 0 0 円